

昭和十五年 度

鮭 鱒 孵 化 事 業 報 告

第七冊

北海道水產孵化場

正誤表

頁	誤	正
目次		
附録	水生・孵化場	水産・孵化場
五頁 五行上カラ四字	鮭親・捕獲場	鮭親魚・捕獲場
六頁 一行	鮭親・捕獲	鮭親魚・捕獲
三一頁 三行下カラ十四字	攻・流	放・流
三四頁 八行下カラ七字	檢・卵	採・卵
四四頁 十一行下字	セントス	セントス
四八頁 終行下カラ十一字	他因的	他因的

目次

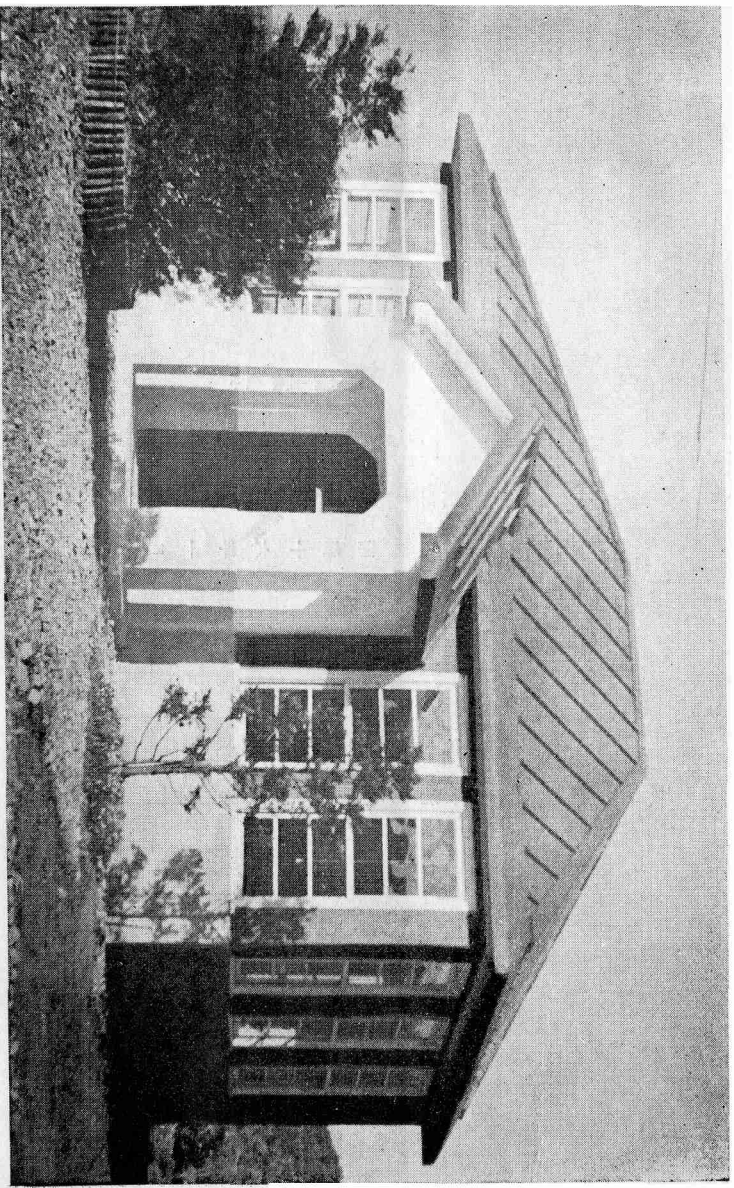
昭和十五年度事業計畫	一
昭和十五年度事業成績	五
一、鮭孵化事業	五
(一) 親魚捕獲及採卵	五
(二) 孵化及放流	二四
二、鱒孵化事業	一八
(一) 親魚捕獲及採卵	一八
(二) 孵化及放流	三一
三、姫鱒孵化事業	二四
四、害魚驅除	三五
五、種卵配付及事業用種卵ノ移植	三五
(一) 種卵配付	三五
(二) 事業用種卵ノ移植	三七

六、試	驗……………	三六
(一)	孵化事業ニ關スル試驗……………	三六
(二)	淡水々族ニ關スル試驗……………	四七
七、調	査……………	五〇
(一)	水族ニ關スル調査……………	五〇
(二)	水面利用ニ關スル調査……………	五五
八、指	導及講習、講話……………	六〇
(一)	指 導……………	六〇
九、其	ノ 他……………	六二
(一)	事業打合會……………	六二
(二)	支場及事業場ノ移轉改稱……………	六二

附

錄

北海道水生孵化場・支場・事業場一覽表



北海道水生孵化場支場見

口 總 說 明

位 置	常呂郡野付町兵村二區
支場創立	昭和十三年十一月
移 轉	昭和十六年一月
建築物	
廳 舍	十九坪九六四
孵化室	六 十 坪
官 舍	八 十 六 坪
養魚池	三百五 坪

昭和十五年度事業計畫

一、鮭鱒孵化事業

鮭鱒漁業ノ現勢ニ鑑ミ將來年産額鮭八萬石、鱒十七萬石タラシムルタメ昭和九年度以來主要民間孵化事業ヲ官營ニ移管シ來リタルモ昭和十四年度此レガ廢止合併ヲナシタル結果五十ヶ所ニ達シタルヲ以テ昭和十五年度ハ鮭四億四千萬粒（内野外孵化九千萬粒）ヨリ三億七千八百尾、鱒二億二百萬粒（内野外孵化六千萬粒）ヨリ一億六千九百八十萬尾、姫鱒二百萬粒ヨリ一百八十萬尾ヲ孵化放流ノ豫定ニシテ其ノ内譯ヲ示セバ左ノ如シ。（ハ野外孵化

場 名	鮭		鱒		摘 要
	採 (卵粒) 數	放 (流) 數	採 (卵粒) 數	放 (流) 數	
本 場	千 別 歲	五、〇〇〇	五〇〇	四、五〇〇	北千島紅鱒
支 場	朱 太 別 歲	三〇〇	二五〇	三三〇	
事 業 場	敷 生 太 別 歲	五〇〇	二五〇	三三〇	
	勇 拂 生 太 別 歲	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
	染 退 拂 生 太 別 歲	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
	三 石	一〇〇	一〇〇	一〇〇	

利別	厚澤部	天ノ川	計	合	本場	
					支笏湖	場
四〇〇	一〇〇	一〇〇	二、三〇〇	四、〇〇〇	—	—
三六〇	九〇	九〇	二、〇七〇	三、七八〇	—	二〇〇
—	—	—	—	三、三〇〇	—	—
—	—	—	—	一六、九〇〇	—	一八〇
—	—	—	—	—	—	姫鱒

昭和十五年度事業成績

本年度鮭人工孵化實績ハ採卵數四億二百七十五萬八千二百粒ニシテ豫定計畫ニ對シ九一・五%ナリ。

本年度鮭親捕獲場ハ千歳川西越捕獲場外百八箇所ニシテ、伊奈仁事業場所屬忠類橋捕獲場ノ九月三日ヲ始メトシテ漸次捕獲ニ着手シ、標津事業場所屬チナ、捕獲場ノ二月二十八日ヲ最後トシテ終了セリ。

前記捕獲親魚中成熟魚ハ直チニ採卵ニ供シ未熟魚ハ蓄養シテ催熟セシメ採卵セリ、卵子ハ各所屬ノ孵化場ニ運搬シ孵化セリ。捕獲親魚中採卵ニ供シタルモノ雌十八萬三千八百二十五尾、雄九萬九千三百尾、計二十八萬三千一百二十五尾ナリ、而シテ以上ノ親魚ヨリ得タル卵數四億二百七十五萬八千二百粒ニシテ之ヲ前年度ニ比スレバ二千五百四萬九千六百粒ノ減少トナレリ、以上ニ依リテ見レバ捕獲雌親魚數ニ對スル採卵用雌親魚數ノ割合ハ七十二%、雌一尾ヨリノ平均採卵數二千一百九十一粒ニ當レリ。

[illegible][illegible]

別 飛	當 路		比 良 糸	比 良 糸	合 計				
	中ノ川	安ンコロ川				溫泉川	計		
三、四六八	五、八一九	九、二八七	二、二八四	一、三五九	三、六四三	四、三五〇、〇〇〇	六五・九	一、九〇五	一〇・二八
二〇、九九七	二七、七五一	四八、七四八	一七、〇二六	一〇、一八一	二七、一〇九	三四、九三〇、〇〇〇	八一・一	二〇、五三三	一一・二
四、〇〇九	六、五八二	一〇、五九一	二、七二三	一、六四五	四、三五六	五、三三〇、〇〇〇	六七・七	一、九七二	一〇・七
二八、四七四	四〇、一五三	六八、六六六	三三、〇三五	二、三八五	三五、一二〇	四四、六五〇、〇〇〇	七七・四	二、〇二七	二・五
一九、八元	二六、七八七	四六、六六	七、四三九	五、四四七	二二、八八六	一三、九八五、〇〇〇	三七・五	一、八七九	二・一
五二	一、五〇五	二、〇二六	四八一	三九〇	八七一	一、〇〇〇、〇〇〇	九二・三	二、〇七九	一一・〇
二、七三	六、〇六七	八、四四〇	一、九九五	一、六六〇	三、六五五	四、一〇〇、〇〇〇	九一・八	二、〇五五	三・八
二、六九四	七、五七二	一〇、八六六	二、四七六	二、四〇〇	四、五二六	五、一〇〇、〇〇〇	九一・九	二、〇五九	三・〇
二六、六七八	一六〇、二三四	二六六、八二三	七八、四八二	四四、二五七	一二、七三九	一五、八五三、五〇〇	七・五	一、九三二	
三三、〇四九	三六、七八二	六三、八三〇	一八三、八三五	九九、二〇〇	二八三、二三五	四〇二、七七八、二〇〇	七・二	二、二九一	

前記採卵數ノ内ヨリ各種供試卵及ビ分與卵ヲ除キ三億九千七百二萬三千二百五十粒ニ對スル死卵數三千七百五十粒ニシテ之ヲ除ク三億五千九百四十二萬六千二百九十六尾ヲ孵化セリ、尙孵化率九〇・五%ニ當レリ。

稚魚ハ養魚池・孵化槽ニ於テ飼育シ健全期ニ達シタルモノヨリ順次河川ノ狀況ニ應ジテ放流セリ、而シテ放流稚魚保護ノタメ隨時沿川ヲ巡視シ保護取締ヲナセリ。成績左表ノ如シ。

第二表
鮭孵化放流成績表

場名	採卵數 (粒)	收容卵數 (粒)	死卵數 (粒)	孵出尾數 (尾)	孵化率 (%)	放流數 (尾)	放流 至月日	摘
千歲	三三,四三三,五〇〇	三三,三六五,〇〇〇	一四,四〇四,九〇〇	二〇,六六〇,一〇〇	九三・七	二〇,三二〇,〇〇〇	五・一〇	六六,五〇〇粒分與
尻別	一八,六五〇,〇〇〇	一八,六五〇,〇〇〇	九八,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇七〇,〇〇〇	九二・七	一〇,〇六三,九〇〇	五・〇〇	五〇,〇〇〇粒標準ヨリ移殖
朱太	一八,七七五,〇〇〇	二一,四七七,五〇〇	一九,〇〇〇,〇〇〇	二二,八二二,四七〇	九二・五	二二,八二二,八〇〇	五・六	
敷生	一八,三三八,八〇〇	一八,三三八,八〇〇	八三,三六四,〇〇〇	一七,五三三,四五六	九五・五	一七,五三一,〇〇〇	二・八	
勇拂	七九,一〇〇,〇〇〇	七九,一〇〇,〇〇〇	四八,四〇〇,〇〇〇	六七〇,六〇〇	九三・三	六四四,六〇〇	五・〇〇	
染退	六,四六五,〇〇〇	六,四六五,〇〇〇	三六八,三〇〇,〇〇〇	六〇,六六七,〇〇〇	九四・三	五八,九七四,七〇〇	四・二	
三石	四五二,五〇〇	四五二,五〇〇	八九,九六〇,〇〇〇	三六二,五四〇	八〇・一	三六二,五四〇	四・〇	
元浦川	九三三,五〇〇	九三三,五〇〇	二六六,九八〇,〇〇〇	六六五,五二〇	七二・三	六六五,五二〇	四・〇	
幌別	二一,一〇〇,〇〇〇	二一,一〇〇,〇〇〇	一三三,九六〇,〇〇〇	一,九六六,一〇〇	九二・二	一,八九七,七七八	六・一	
十勝	三三,一〇〇,〇〇〇	三三,一〇〇,〇〇〇	三三,二五五,四〇〇	二七,七〇九,五九五	八九・三	二七,三九二,二二二	五・〇〇	
天鹽	四三,七七五,〇〇〇	四三,九六七,五〇〇	七二,一三八,〇〇〇	三三,七六六,二二〇	八二・三	二,九八八,七九	五・〇〇	
德志別	二二,七〇七,五〇〇	二二,七〇七,五〇〇	二八〇,〇〇〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇,〇〇〇	二八・三	二七,四七〇,〇〇〇	五・〇〇	
頓別	六,二二二,五〇〇	五,二二二,五〇〇	三三,九八八,〇〇〇	一,九六一,六六二	八八・九	一七,七三二,〇〇〇	五・三	
虹別	二四,〇五五,〇〇〇	三三,八〇〇,〇〇〇	七二〇,三九二,〇〇〇	三三,〇七九,六〇八	九七・八	三三,五五六,五五四	五・二	

砂利埋没天然孵化

一〇〇,〇〇〇粒分與

六六,〇〇〇粒標準ヨリ

二〇,一七五,〇〇〇粒標準ヨリ

一〇,〇〇〇粒當幌ハ

計	比良糸	當路	別飛	擇捉	年蒨	羅白	老門	留別	泊別	音根別	溫根沼	二木城	國後	利別	知內	厚澤部	天ノ川
四〇二、七八、二〇〇	五、一〇〇、〇〇〇	二、三九八、五〇〇	四四、六五〇、〇〇〇	五〇、八四四、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	八、八七二、五〇〇	二、三、四二二、五〇〇	二、一、四一九、五〇〇	一、一〇、一九五〇〇	四、三〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	六、三〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	三、五九二、五〇〇	一、二一〇、〇〇〇	五、一〇、四〇〇	五九〇、〇〇〇
三九七、一〇三、二五〇	五、一〇〇、〇〇〇	八、九八五、〇〇〇	二九四五〇、〇〇〇	五〇、八四四、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	七、一〇二、五〇〇	三、八七二、五〇〇	一、一〇、一九五〇〇	四、三〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	六、三〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	三、五九二、五〇〇	一、二一〇、〇〇〇	五、一〇、四〇〇	五九〇、〇〇〇
三七、五九六、九五四	二、四七二、七〇〇	二、八九五、六八〇	六六六、三五〇	三、一〇四、三〇〇	一、一九八、一〇〇	二、四一、五九〇	二、一〇三、七五〇	八、八一、九〇〇	五、四〇〇、〇〇〇	三、九、九一〇	五七、九三〇	四〇〇、九〇〇	六、四九、五二〇	三、二九〇、三三〇	八、二、四三九	八〇、五〇〇	五四、六九〇
三五九、四四六、二九六	四、八五二、三〇〇	六、八九五、五〇〇	一四、五三三、六五〇	四七、八三〇、七〇〇	三、一八〇、一九〇	四、七七八、四一〇	四、九〇八、七五〇	一〇、五五七、六〇〇	九、六五五、〇〇〇	四、二七〇、〇九〇	八、四二、〇七〇	五、八九九、一〇〇	二、六三〇、四九〇	三、一六二、四六七	一、八七五、五七一	四二九、九〇〇	五五五、三二〇
九〇、五	九五、一	七〇、〇	九五、六	九四、一	九六、四	九五、二	七〇、〇	九二、二	九三、九	九四、九	九三、六	九三、六	九五、一	九三、二	九五、七	八四、二	九〇、七
五五四、一四四、一〇〇	四、七五三、三〇〇	六、八九五、五〇〇	二一、六六七、〇〇〇	四七、三三五、四〇〇	二、七三〇、七五〇	四、七五〇、四〇〇	四、九〇八、七五〇	一〇、三三七、六〇〇	九、六〇〇、〇〇〇	四、一五〇、〇〇〇	七、八三、九四〇	五、六九九、一〇〇	二、三三六、九〇〇	三、一六〇、〇〇〇	一、八二〇、〇〇〇	四、五、六〇〇	五三、一七〇
六、一	六、一	六、三	六、九	六、九	五、九	六、〇	六、三	六、八	三、〇	三、五	六、二	三、三	五、三	四、五	五、三	五、二	四、一〇
		砂利埋没天然孵化	砂利埋没天然孵化			三、七二五〇粒留別へ移殖	砂利埋没天然孵化	七、〇二、五〇〇粒羅白ヨリ移殖ノ分	三、八七二、五〇〇粒羅白ヨリ移殖								

雪 裡	劍 路	尾 幌	風 蓮	當 幌	標 津	伊 茶 仁	薰 別	目 梨	湧 別	斜 里	網 走	北 見	興 部	幌 内	渡 島
七〇,五〇〇	一四,五六七,五〇〇	三,三九二,五〇〇	六,一〇〇,〇〇〇	八九〇,〇〇〇	三六,〇〇五,〇〇〇	五,九八〇,〇〇〇	二二,一五〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	一〇,九六七,五〇〇	三,一〇五,〇〇〇	六,七三七,五〇〇	九,三七五,〇〇〇	一三,一〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,五七五,〇〇〇
七〇,五〇〇	一三,五六七,五〇〇	三,三九二,五〇〇	六,一〇〇,〇〇〇	八,七六五,〇〇〇	八,三六三,〇五〇	九,四四〇,〇〇〇	一〇,一四〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	八,九七二,五〇〇	三,一〇五,〇〇〇	六,七三七,五〇〇	八,二七五,〇〇〇	一三,一五〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,五七五,〇〇〇
九五九,〇〇〇	一,〇〇六,五四三	二五七,六〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五四三,一九〇	六三六,〇九〇	四二七,一六〇	五九〇,一〇〇	二八二,六〇	一,〇〇,〇七〇〇	一八八,二七〇	六三三,一八〇	六三三,五二〇	一三,〇〇〇	九六八,六〇〇	一四二,二五〇
六,〇六六,〇〇〇	二,五五〇,九五七	三,一四四,九〇〇	五,六〇〇,〇〇〇	八,三二一,八二〇	七,七六九,九六〇	九,〇三二,八四〇	九,六四九,八〇〇	八七一,七四〇	七,九六八,八〇〇	三,一〇六,七三〇	六,一〇四,三二〇	七,六五二,四九〇	一,一九五〇	一〇,一〇〇,〇〇〇	一,四六七,五五〇
八六・三	九二・三	九二・四	九一・八	九三・八	九二・四	九五・六	九四・三	九六・八	八八・六	九四・一	九〇・六	九二・五	九〇・二	九一・三	九二・三
五八八,〇〇〇	二,三五〇,九五七	三,〇五九,九〇〇	五,六三三,〇〇〇	八,一六九,八〇〇	七,六八〇,四六〇	八,九五〇,〇〇〇	九,六二四,一〇〇	八四三,八〇〇	六,四二六,八〇〇	二,九六一,九五〇	六,一〇〇,三三〇	七,五七八,七九〇	一〇二,一五〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,四四〇,〇〇〇
四・一	五・五	五・七	五・〇	六・五	四・一	六・〇	四・二	四・三	三・五	四・三	三・〇	四・四	五・二	四・〇	四・八
一,〇〇〇,〇〇〇粒堀株へ移植	一〇,一四〇,〇〇〇粒常幌ヨリ	六八五,〇〇〇粒標準ヨリ移植	六八五,〇〇〇粒常幌ヨリ	一〇,一四〇,〇〇〇粒常幌ヨリ	三,四〇〇,〇〇〇粒薰別ヨリ移植	三,四〇〇,〇〇〇粒伊茶仁へ	二,一〇〇,〇〇〇粒目梨ヨリ移植	二,一〇〇,〇〇〇粒薰別へ移植	二,五〇〇,〇〇〇粒滑川へ移植	二,五〇〇,〇〇〇粒滑川へ移植	一,一〇〇,〇〇〇粒暑寒別川へ移植	四七,五〇〇粒分與			

二、鱒孵化事業

本年度鱒人工孵化實績ハ四千三百四十四萬七百粒ニシテ豫定計畫ニ對シ採卵率二一・五%ヲ示ス不成績ニ終了セリ。

(一) 親魚捕獲及採卵

本年度親魚捕獲場所ハ千歲川外五十九箇所ニシテ内德志別・湧別第四・渚滑第四・斜里第一ノ四捕獲場ハ櫻鱒卵充實ノ目的ヲ以テ充分ナル蓄養設備ノ下ニ六月ヨリ捕獲ヲ開始セルモ其ノ他ハ例年通り捕獲ニ着手シ十一月二十日十勝事業場所屬愛國捕獲場ヲ最後トシテ終了セリ、捕獲場所及ビ期間ヲ示セバ第三表ノ通りナリ。

此ノ間ニ於ケル捕獲數雌三萬六千四百十七尾、雄六萬一千七百二十六尾、計九萬八千一百四十三尾ニシテ之ヲ前年度ニ比スレバ雌ニ於テ七百六十七尾ノ増加雄ニ於テ一千九百七十六尾ノ減少、總計ニ於テ一千二百九尾ノ減少ヲ示セリ。

前記捕獲親魚中成熟魚ハ直ニ採卵ニ供シ未熟魚ハ極力蓄養シ、成熟ヲ待テ採卵ヲナシ卵子ハ各所ノ孵化場ニ運搬收容シ孵化セリ、捕獲親魚中採卵ニ供シタルモノ雌二萬七千七十三尾、雄一萬二千二百十六尾、計三萬九千二百八十九尾ナリ、而シテ以上ノ親魚ヨリ得タル卵數四千三百四十四萬七百粒ニシテ之ヲ前年度ニ比マレバ七百三十四萬五千粒ノ増加ヲ示セリ。

以上ニ據リテ見レバ捕獲雌親魚數ニ對スル採卵用雌親魚ノ割合七四・八%、雌一尾ヨリノ平均採卵數一千六百四粒ナリ。

第三表 鱒親魚捕獲採卵成績表

場名	捕獲場名	捕獲數 (尾)		使用數 (尾)		採卵數 (粒)	期間 自月日至月日
		雌	雄	雌	雄		
本場	南別飛川	二四	一九	二〇	六	四〇〇,〇〇〇	七・三 一〇・九
千歲	西越	六	三六	四五	三	一五、〇〇〇	一〇・六 九・二
尻別	昆布名	七	二〇	七七	一八	一八四、〇〇〇	九・三 九・〇
	計	一〇	四四	七四	二〇	一六二、五〇〇	九・三 九・〇
朱太	作開	三九	九	三六	八五	九二、〇〇〇	九・四 一〇・一
	熱郭	二四〇	六	二八	四	五六七、五〇〇	一〇・一 一〇・一
	瀧ノ澤	一	一	一	一	一	一〇・一 一〇・一
	計	二四〇	一六	五九	三九	一、四八七、五〇〇	一〇・一 一〇・一
天鹽	第ニ	四	一九	四	一七	九一、〇〇〇	八・三 九・〇
	第ニ	一八	七	六	四	一四、〇〇〇	八・五 九・〇
	計	六二	二六	一〇	二一	一〇五、〇〇〇	九・二 九・一
頓別	頓別	二〇	三	三	二	五、〇〇〇	九・八 一〇・一
德志別	德志別	四、九三五	二、五七	一、八五九	五七四	二、九四〇,〇〇〇	一〇・一 一〇・一

國後管內計	音根別 音根別川	温根沼 シベトロ川 計	北見管內計	幌 内 第 二 計	興 部 第 一 計	岩 尾 別 第 一 計	常 呂 第 二 計	網 走 第 一 計
一、八八	一七一	一、〇七	五、五四六	三〇二	四九	八四	七九四	二四八
一、四三六	二五〇	一、八六	六、四七〇	五五一	四九七	九八四	九六七	三八八
二、六四	四二	二、一〇三	二、〇二六	八五二	九一五	一、八二八	一、七六一	六三六
一、〇四九	二一八	九三	三、七二〇	二五八	一八四	四四〇	四二四	二二
三八八	九	二九五	一、三二	九一	六〇	一五三	一四七	三八
一、四七	二二	一、三六	五、〇三	三四九	九六	五九三	五六一	一六一
一、七五、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	一、五五、〇〇〇	五、七四、五〇〇	三八〇、〇〇〇	二二七、五〇〇	四七、五〇〇	一七〇、〇〇〇	一七、〇〇〇
一〇・七・九	一〇・七・九	一〇・七・九	一〇・七・九	一〇・七・九	一〇・七・九	一〇・七・九	一〇・七・九	一〇・七・九

合 計 (櫻 樽 太 樽 含 ム)	比 良 系 比 良 系 川 計	當 路 當 路 沼 計	別 飛 中 ノ 川 計	紗 那 振 別 川 計	年 萌 黑 木 内 計	老 門 老 門 川 計	擇 捉 留 別 川 計
三、四七	一、六八二	一、三八八	四、四一	三、五九一	一、〇九五	二、四二	三、四五四
六、七六	六、四三	一、八四八	七、九五四	四、七七七	二、五五五	一、五七七	九、三六
九八、四三	八、〇四	三、四六	二、三三五	八、三六八	三、六〇〇	三、七八	二、七六〇
二七、〇三	一、四四四	九六	三、四七	三、〇六	九六	一、九六	三、一七〇
二、二二六	一、〇〇	五七一	二、〇八六	一、三六九	四、二五	六四九	一、六二〇
三、九、二八九	二、四四四	一、五二	五、五三	四、二八五	一、四四五	二、五八	四、七〇
四三、四四〇、七〇〇	二、二五〇、〇〇〇	一、四一〇、〇〇〇	五、四四〇、〇〇〇	四、五三四、〇〇〇	一、九六〇、〇〇〇	二、六七〇、〇〇〇	五、五五九、〇〇〇
一〇・一・一〇	一〇・一・一〇	一〇・一・一〇	一〇・一・一〇	一〇・一・一〇	一〇・一・一〇	一〇・一・一〇	一〇・一・一〇

櫻樽ノ部

千 歳 西 越	場 名 捕 獲 場 名	捕 獲 數 (尾)	使 用 數 (尾)	採 卵 數 (粒)	使用率 (%)	平均 採 卵 數 (粒)	期 間 自 月 日 至 月 日
六三	雌雄計	六三	六三	六三	七・六	二、五五五	一〇・一・一〇

第 三	第 一	北 見			虹 別 管 内 計	伊 茶 仁 當 帳 第 二 計	標 津 計	當 帳 シ カ ル ナ イ	風 蓮		
		渾 別 第 三	同 第 四	渾 滑 第 四					風 蓮 計	別 當 賀	姉 別
一〇七	八五九	一八六	五五	九三	一、四三三	六八	六二	七	二〇二	八三	一三九
三四	八九三	一二三	四八	四七	九八五	七五	七三	三	二二一	五三	六二
一四	一七	二九	一〇	一四〇	二、四八八	一四三	一三	一〇	五八	三三	二〇〇
二六	五四	一四八	四九	五九	一、二一四	三〇	二二	七	一九九	七六	九四
一〇	一七〇	七〇	二四	三一	四四四	一一	九	二	一〇五	四四	二九
三六	六四四	二八	七三	九〇	一、五五八	四一	三三	九	二九八	二三	二三
〇〇〇,〇〇〇	八七五,〇〇〇	三三三,〇〇〇	一〇一,〇〇〇	一〇一,〇〇〇	二、三六六,〇〇〇	六七,〇〇〇	五三,〇〇〇	一五,〇〇〇	五五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	二七,五〇〇
二四・二	六・〇	七九・五	九・四	六・四	七五・六	四四・八	三七・八	一〇〇・〇	九九・〇	九・四	六七・七
一・九三	一・六六	一・八五八	一・八三六	一・七三七	二・三三三	二・二二〇	二・二二六	二・四二二	二・三三三	二・三三三	二・三三三
九八・三	九六・一	九六・二〇〇	九六・二〇〇	九六・二〇〇	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一

ノ コ ベ リ	虹 別 奔 計 別	本 場 管 内 計	德 志 別 德 志 別	天 鹽 第 三 計	十 勝 愛 國	朱 太			尻 別 目 布 名
						瀧 計	熱 ノ 澤	作 開	
九五	七三三	四二二	三、五九〇	六二	一四	六三〇	二四〇	三九〇	一八七
九八	三三八	二〇〇	一、四九〇	二六	六	一七五	七六	九八	四四
一九三	一、〇七二	六四二	五、〇八〇	八七	二〇	八〇六	三二八	四八八	三三一
三五	五五四	三三九	一、〇八四	四七	一四	五七九	二二八	三六二	二五四
三一	一六	一〇九	三九	二二	六	三九	五四	八五	三八
六六	七三〇	四三八	一、四三三	六八	二〇	七二八	二七三	四四六	一九三
五七、五〇〇	一、〇六六,〇〇〇	五七、五〇〇	一、九〇〇,〇〇〇	一〇五,二〇〇	三五,五〇〇	一、四八七,五〇〇	五七、五〇〇	九〇,〇〇〇	三六六,五〇〇
三六・八	七五・七	七八・一	三〇・二	七〇・〇	一〇〇・〇	九一・九	九〇・八	九二・五	八二・三
一・六四三	一・七二	一・七二四	一・八二六	二・三三八	二・五八八	二・五六九	二・六〇三	二・四八八	二・二五〇
九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一	九八・三〇一

斜里	第 四 第 五 計	常 呂 第 二 計	岩 尾 別 第 一 計	北 見 管 内 計	合 計
二〇	三	二七	三六	一、二三八	七、二五五
六	二	四	四	一、〇五五	三、八八八
二六	五	三一	八〇	二、三三三	一一、一三三
二七		一五		七三〇	三、七七七
六		二		二五八	一、一九八
三		一七		九八八	五、〇六五
二五、〇〇〇		三、〇〇〇		一、二五五、〇〇〇	七、七〇〇、七〇〇
八五・〇		五五・五		五八・九	五一・九
一、四七〇		二、〇〇〇		一、七一九	二、〇四四

樺太鰯ノ部

場 名	捕 獲 場 名	捕 獲 数 (尾)	使 用 数 (尾)	探 卵 数 (粒)	雌 親 魚 使 用 率 (%)	平 均 採 卵 数 (粒)	期 間 自 月 日 至 月 日
德 志 別 德 志 別	德 志 別 德 志 別	一、四四五	一、〇七	二、四三	七五	二〇五	九・七・三
頓 別 第 一	頓 別 第 一	一〇	三	五	三〇・〇	一、六六	一〇・九・八
本 場 管 内 計	本 場 管 内 計	一、三五四	七七八	九八五	五七五	一、二四〇	九・八・一
虹 別	奔 別	九四二	七五	五八二、五〇〇	七四・九	八二六	九・八・一
オ ン ネ ベ ッ	オ ン ネ ベ ッ	四二	六〇	五〇、〇〇〇	七六・九	八三三	九・八・一
シ ュ ワ ン プ ト	シ ュ ワ ン プ ト	二〇	二〇	五七、五〇〇	九〇・一	一、〇四五	九・八・一

風 連	ノ コ ベ リ	風 蓮 橋	姉 別	別 當 賀	計	當 幌	シ カ ル ナ イ	ボ ン マ タ オ チ	マ タ オ チ	オ ン ネ リ ウ ル	標 津	チ ナ ナ	計	伊 茶 仁	伊 茶 仁 當 幌 第 二 計	虹 別 管 内 計
五	五	四九			五四		一、七〇九	八九	四	一		一、三六九	一、四六三	八〇	八〇	四、三六六
七	七	六五			七二		三、一七三	一三一	五	一		一、〇、五七	一〇、七四〇	一四五	一四五	一五、二九九
二	二	一四			二六		四、八八二	三三〇	九	二		二、一九三六	二、一六七	三三	三三	一九、六八五
五	五	三			一八		一、五七七	八三	三			八九	九五	五三	五三	三、三四二
四	四	一〇			二四		九一〇	二七	一			三三九	三三七	一九	一九	一、五七五
九	九	三			三三		二、四七	一一〇	四			一、二七八	一、二九	七二	七二	四、九七
七	七	一〇、〇〇〇			一七、五〇〇		二、四八五、〇〇〇	一〇、七、五〇〇	二、四〇〇			九四、二、五〇〇	一、〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	四、三、七、五〇〇
一〇〇・〇	一〇〇・〇	二六・五			三三・三		八・八	九・三	七五・〇			六・〇	六・九	六五・〇	六五・〇	七・二
一、五〇〇	一、五〇〇	七六九			九七		一、三三八	一、二六三	八三			一、一一〇	一、一一一	一、四四一	一、四四一	一、二九二
九・八・五	九・八・五	九・八・五			九・八・五		一〇・九・一	九・九・五	九・九・五	九・九・五	九・九・五	九・七・三	九・七・三	九・八・一	九・八・一	九・八・一

紗那	年	老	擇	國	音	溫	北	幌	岩
振別川	計	オイト川	ルベツ川	管内計	音根別	計	管内計	第1	第1
三、五九一	九三八	二、一四一	三、四四四	一、一八八	二、一七	一、〇七	四、三〇八	二九七	三三三
四、七七七	二、二七七	一、五七七	九、三三六	一、四三六	二、五〇〇	一、一八六	五、三七五	五四六	四五三
八、三六八	三、二五	三、七七八	二、七〇〇	二、六四四	四、二	二、三三	九、六六三	八四三	八五
三、〇六	八七	一、九元	三、七〇〇	一、四九九	二、一八	九三	二、九六〇	二五四	一八四
一、二六九	三六八	六四九	一、六二〇	三、八八	九三	二九五	一、〇五四	八六	六〇
四、二八五	一、三三九	二、五七八	四、七九〇	一、四三七	二、二	一、三六	四、〇〇四	三、四〇	二、四四
四、五五四、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	二、六七〇、〇〇〇	五、五五九、〇〇〇	一、七五五、〇〇〇	X	一、五五五、〇〇〇	四、五五九、五五〇	三、七五、〇〇〇	三、二二、〇〇〇
八三・九	九・九	九・〇	九・八	八・三	六・〇	九・五	六・一	八・五	四七・九
一、五〇〇	一、九六八	一、三三四	一、七五	一、六四四	一、五五	一、六七〇	一、六三	一、四七六	一、二六〇
二〇・八・九	二〇・八・六	二〇・八・三	二〇・八・〇	二〇・八・〇	二〇・八・〇	二〇・八・〇	二〇・八・〇	二〇・八・〇	二〇・八・〇

興	常	網	斜	北
部	呂	走	里	見
第1	第1	第1	第1	第1
計	計	計	計	計
九四	八七	二五	一、七五	六九八
九二	九八〇	三九六	一、九九	九〇五
一八五	一、七七七	六四七	三、七四	一、六〇
六八	四、五	二二	一、四四	五〇七
一八	二五二	三八	四八四	二二
九六	五七六	二二	一、八八九	七九
二七、五〇〇	六〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二、二二、五〇〇	七、七、五〇〇
八・九	五・六	四九・〇	七・一	七・六
一、六三六	一、四二	一、三八三	一、五四	一、五五
二〇・八・一	二〇・八・一	二〇・八・一	二〇・八・一	二〇・八・一

別飛	中ノ川	當路	比良糸川	比良糸シベトロ川計	擇捉管内計	合計
四、四四二	七、九三四	一、五五七	二七	一、五五四	一七、四〇五	二八、六四三
二、三三五	二、七二六	六、〇〇〇	五、八七〇	六、四三三	五、二六六	八五、七三三
三、四九七	二、〇六六	七九七	一、一三四	一、四四四	二、四七四	三、八七三
五、五八三	一、二四九	四五一	九〇〇	一、〇〇〇	七、四四四	二〇、六六八
五、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇五、〇〇〇	一、〇〇五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇六、〇〇〇	三、四、六五、〇〇〇
七六七	一、二五六	六六八	八九七	八五九	八四五	七九八
一、二五八	一、〇九三	一、二六二	一、五七九	一、五五六	一、五六七	一、二五三
一〇・九三	一〇・五五	一〇・五五	一〇・四〇	一〇・二五		

紅鱒之部

場名	捕獲場名	雌	雄	計	使用數(尾)	採卵數(粒)	雌親魚使用率(%)	平均採卵數(粒)	期間
本場	南別飛川	二四	一九九	二二三	二〇	四〇、〇〇〇	九六七	三、五〇〇	九・八・三
年萌	年萌湖	一五七	二七八	四三五	二〇	三〇〇、〇〇〇	七六四	二、五〇〇	九・七
當路	當路沼	二九	二九一	五三〇	一九三	四〇五、〇〇〇	五六九	二、〇九八	九・五
合計		五〇	七六八	一、二八八	四三三	一、二五、〇〇〇	八三二	二、五九八	

(二) 孵化及放流

前記採卵數ノ内ヨリ各種供試卵及分與卵ヲ除ク四千二百八十六萬二百粒ヲ孵化セリ、而シテ孵化中ノ死卵數二百六十七萬二千二百七十四粒ナリ。
稚魚(養魚池及孵化槽等ニ飼育ニ達シタルモノヨリ順次河川ノ狀況ニ應ジテ放流シ鮭同様保護取締ヲナセリ。
成績第四表ノ如シ。

第四表 鱒孵化放流成績表
櫻鱒之部

場名	採卵數(粒)	收容卵數(粒)	死卵數(粒)	孵出尾數(尾)	孵化率(%)	放流數(尾)	放流至月日	摘要
千歳	一一五、〇〇〇	一一二、五〇〇	一八、四〇〇	九四、一〇〇	八三・六	九〇、〇〇〇	五・五・一	二、五〇〇粒供試
尻別	三、四六五	三、三六五	一〇〇	三、〇六五	九三・七	三、〇六五	五・五・一	二、〇〇〇粒分與
朱太	一、四八七、五〇〇	一、二八四、五〇〇	二〇、〇〇〇	一、二六七、五〇〇	九七・一	一、二六二、五〇〇	五・五・一	二、〇〇〇粒分與
十勝	三、五五〇	三、五五〇	七九	三、四七一	九七・七	三、四七一	五・五・一	二、〇〇〇粒分與
天鹽	一〇五、二〇〇	九五、一〇〇	一〇、一〇〇	九〇、一七〇	九四・七	八八、三六六	五・五・一	一〇、〇〇〇粒分與
徳志	一、九八〇、〇〇〇	一、九八〇、〇〇〇	七六、二八〇	一、八〇三、七二〇	九六・一	一、八七三、五二〇	五・五・一	二〇、〇〇〇粒分與
虹別	一、〇三六、〇〇〇	九三六、〇〇〇	八五、二〇〇	八五〇、四九〇	九〇・八	八四〇、〇〇〇	五・五・一	一〇、〇〇〇粒分與
風蓮	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二〇	四、〇〇〇	九五・七	四、〇〇〇	五・五・一	
當幌	五、二〇〇	五、二〇〇	三、七四〇	一、四六〇	九二・八	四七七、〇〇〇	五・五・一	

北	斜	湧	伊	標
計	見	里	別	仁
七、七、五〇〇	三、〇〇〇	九、〇〇〇	二、七、五〇〇	二、六、七、五〇〇
七、七、五〇〇	三、〇〇〇	七、五〇〇	二、七、五〇〇	二、六、七、五〇〇
五、三、八七九	七	六、八、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇
六、六、六、三三	二、二、〇〇〇	六、六、六、三三	三、五、〇〇〇	二、七、五〇〇
九、八	九、七、六	九、八	八、八	九、八、三
六、五、九、〇、七	二、四、〇〇〇	六、七、八、三	二、〇、〇〇〇	五、八、九〇〇
二、二、六	二、二、六	二、二、六	二、一〇	二、一、五
三、五、〇〇〇粒分與				

樺太鱒之部

斜	湧	伊	標	當	風	虹	頓	德	場
里	別	仁	津	幌	蓮	別	別	別	名
二、二、三、五〇〇	七、七、五〇〇	七、七、五〇〇	一、〇、〇〇〇	二、四、八、五〇〇	一、七、五〇〇	六、九、〇〇〇	五、〇〇〇	九、〇、〇〇〇	採卵數
二、二、三、五〇〇	七、七、五〇〇	七、七、五〇〇	一、〇、〇〇〇	二、四、八、五〇〇	一、七、五〇〇	六、九、〇〇〇	五、〇〇〇	九、〇、〇〇〇	收容卵數
三、五、〇〇〇	八、五、〇〇〇	六、三、〇〇〇	六、八、六〇〇	九、八、五〇〇	二、三、八、一、八〇〇	二、四、八、五〇〇	四、〇〇〇	二、五、〇〇〇	死卵數
一、九、六、六、五〇〇	七、〇、〇〇〇	六、八、六〇〇	九、八、五〇〇	二、三、八、一、八〇〇	二、四、八、五〇〇	六、九、〇〇〇	四、〇〇〇	九、〇、〇〇〇	孵出尾數
八、八、八	八、八、三	九、一、五	九、三、八	九、〇、〇	八、〇、三	九、八、五	九、二、〇	九、七、三	孵化率
一、九、五、八、〇	六、七、二、〇〇	六、七、三〇〇	九、八、五〇〇	二、三、八、一、八〇〇	二、四、八、五〇〇	六、九、〇〇〇	四、〇〇〇	九、二、〇〇〇	放流數
三、五、一	三、三、五	三、三、一	二、一、五	四、五	三、三、五	二、一、五	二、一、一	五、〇、〇	放流 自月日 至月日
五、〇〇〇粒當幌く移殖					五、〇〇〇粒虹別ヨリ移殖				
五、〇〇〇粒當幌く移殖					五、〇〇〇粒虹別ヨリ移殖				

合	櫻	比	當	別	擇	年	老	留	音	溫	幌	岩	興	北	網
計	太	良	路	飛	捉	萌	門	別	別	沼	内	尾	部	見	走
四、三、二、五、七〇〇	四、三、二、五、七〇〇	二、五、〇〇〇	一、〇〇〇	五、四、〇〇〇	四、三、四、〇〇〇	一、六、八、〇〇〇	二、七、〇〇〇	五、五、九、〇〇〇	一、八、〇〇〇	一、五、五、〇〇〇	三、八、〇〇〇	二、三、一、〇〇〇	二、七、五〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇
四、一、八、五、〇〇〇	四、一、八、五、〇〇〇	二、五、〇〇〇	一、〇〇〇	五、四、〇〇〇	四、三、四、〇〇〇	一、六、八、〇〇〇	二、七、〇〇〇	五、五、九、〇〇〇	一、八、〇〇〇	一、五、五、〇〇〇	三、八、〇〇〇	二、三、一、〇〇〇	二、七、五〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇
二、六、四、六、五〇〇	二、六、四、六、五〇〇	八、九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、九、九、五〇〇	二、三、〇〇〇	七、〇、二、九〇〇	三、三、七、〇〇〇	二、六、六、〇、七〇〇	一、三、四、〇〇〇	八、七、二、五、五〇〇	三、八、〇〇〇	二、三、一、〇〇〇	二、七、五〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇
三、九、一、三、八、六、六	三、九、一、三、八、六、六	二、六、一、〇〇〇	七、三、五〇〇	五、一、〇〇〇	四、三、一、〇〇〇	一、六、九、七、一〇〇	二、五、七、二、六〇〇	五、五、三、二、九〇〇	一、七、〇、〇〇〇	一、四、六、七、七、四、五〇〇	三、八、〇〇〇	二、三、一、〇〇〇	二、七、五〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇
九、三、七	九、三、六	九、六、四	七、〇、〇	九、六、三	九、五、三	九、五、八	九、五、〇	九、四、七	九、五、一	九、四、四	九、〇、五	九、〇、五	九、〇、一	九、一、九	八、九、七
三、七、四、四、一、二、六、七	三、〇、八、三、六、五、五〇〇	二、三、六、〇〇〇	七、三、五〇〇	四、一、六、〇〇〇	四、一、七、四、〇〇〇	一、三、六、八、二、五、三	二、五、三、八、八〇〇	五、一、六、〇〇、四〇〇	一、六、〇、〇〇〇	一、四、五、二、五〇〇	三、八、〇〇〇	二、三、一、〇〇〇	二、七、五〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇
	四、四、一			五、〇	四、〇、五	四、八	五、五、二	五、五、六	三、五	五、〇	四、〇、三	四、〇、三	三、三	四、四	四、五
砂利埋没天然孵化															

紅鱒之部

場名	採卵數 (粒)	收容卵數 (粒)	死卵數 (粒)	孵出尾數 (尾)	孵化率 (%)	放流數 (尾)	放流 至自 月日	摘 要
當年	300,000	300,000	10,000	290,000	96.6	246,500	4.8	
當路	405,000	405,000	17,310	387,690	95.7	377,700	5.1	
計	705,000	705,000	27,310	677,690	96.0	624,200	6.1	

三、姫鱒孵化事業

本年度支笏湖ニ於ケル姫鱒親魚捕獲數雌一千八百九十尾、雄五千五百五十六尾、計七千四百四十六尾ニシテ此ノ内採卵ニ供シタル雌一千八百尾、雄三百四十四尾、計二千一百四十四尾、採卵數九十三萬粒ナリ、檢卵狀況右ノ如クナリシヲ以テ之カ補充ト魚体改善ノ見地ヨリ擇捉島ウルモベツ孵化場產紅鱒十萬粒ヲ移殖シ孵化放流セリ。
成績左表ノ如シ。

種類	收容卵數	死卵數	卵出數	孵化率	放流數	放流期間 至自 月日	摘 要
支笏湖產	80,000	5,400	84,400	97.0	72,000	5.1	
ウルモベツ產	100,000	2,000	98,000	98.0	95,000	5.3	
計	180,000	7,400	182,400	97.5	167,000		

四、害魚驅除

孵化事業ノ成果ヲ確保センタメ左記ノ通り害魚驅除ヲ施行セリ。

場名	施行河川	期間 自昭和年月日 至昭和年月日	方法	魚種	驅除尾數	摘 要
國後支場	東沸湖口	五・四・三	上リウライ	ウ雨	四、四六	降海性
	アンノロ川	五・二・五	上リウライ	雨	四三	湖河性
二木城事業場	二木城湖口	五・四・八	上リウライ	ウ雨	九、四八	降海性
	二木城川	五・八・三	上リウライ	雨	二六〇	湖河性
染退事業場	染退川	五・八・三	曳網	ウ雨	六、一〇八	

五、種卵配付及事業用種卵ノ移殖

(一) 種卵配付

道内河川湖沼ヘノ移殖、民間養鱒業ノ發達及學術研究ニ資スル爲鮭卵一百六萬七千粒、鱒卵五十五萬三千粒、虹鱒卵二十一萬粒ヲ左ノ通り配付セリ。

(一) 孵化事業ニ關スル試験

(1) 標識ノ方法ノ改良竝ニ標識ノ游泳ニ及ボス影響ニ關スル試驗

(二) 事業用種卵ノ移殖

本場管内孵化場間及他ヨリ事業用種卵トシテ移植セルモノ鱒五萬粒、鮭四千三百三十一萬四千四百五十粒、紅鱒卵十萬粒ナリ、詳細左ノ如シ。

魚種	卵數(粒)	産地	移植先
鮭	計 五〇、〇〇〇 三、八七二、五〇〇	虹別支場 羅臼事業場	當幌事業場 留別事業場
鮭	六五〇、〇〇〇 三、四六〇、〇〇〇 二、一七五、〇〇〇 一〇一、九五〇 六、八三五、〇〇〇 五五〇、〇〇〇	薰別事業場 標津事業場 本場 虹別支場 當幌事業場 朱太事業場	虹別支場 伊茶仁事業場 虹別支場 本場 當幌事業場 朱太事業場
魚種	卵數(粒)	産地	移植先
鮭	計 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇 五〇、〇〇〇 三〇〇、〇〇〇 一、一〇〇、〇〇〇 二、一〇〇、〇〇〇 四三、三三四、四五〇	虹別支場 頓別事業場 湧別事業場 千歳事業場 國後支場 北見支場 目梨事業場	當幌事業場 暑寒別川 渚滑川 本場 ウラロウシベツ川 暑寒別川 薰別事業場
紅鮭	一〇〇、〇〇〇	ウルモベツ野化場	支笏湖事業場
計	一〇〇、〇〇〇		

魚種	卵數(粒)	產地	配付先
鮭	四三,500 1,450 1,500 1,500 五,000 一,500 一,000,000 一,000,000 1,000,000	渡島支場 知内事業場 敷生事業場 千歳事業場 〃 〃 釧路事業場	函館高等水產學校 〃 〃 〃 〃 東京帝國大學水產動物學教室 堀株養殖組合
鯨	100,000 10,000 10,000 10,000 10,000 10,000 10,000 10,000 10,000	斜里事業場 朱太事業場 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	上川郡上川村 明石幸輔 上磯郡上磯町熊谷孝太郎 札幌市南二十條西二丁目 吉野武者二 龜田郡七飯村 和田一夫 本場 傷痍軍人北海道療養所 小樽水產學校 小樽市長橋町 西川岩吉 河西郡大正村字幸震 小林秀太郎
計	1,000,000		
魚種	卵數(粒)	產地	配付先
虹鱒	10,000 10,000 10,000 10,000 10,000 10,000 10,000 10,000 10,000	千歳事業場 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	中川郡幕別村字白人 中川郡幕別村字止若 丸山治市 常呂郡野付牛町 高山信治 新保孫次郎 帶廣市東十條南五丁目 江川定吉 増毛郡増毛町五十嵐眞一 徳志別事業場 〃 本場
計	100,000		

場所 北見支場 自昭和十五年十月 至昭和十六年三月
結果 (イ) 木箱ニ依ル運搬方法

姫鱒卵及鮭卵ヲ左記寸法ノ運搬箱ニヨリ中之島本場へ輸送セリ。

番 號	輸 送 器 寸 法			收 容 卵 數	備 考
	縱	横	容 積		
一	一・〇 尺	八 寸	四〇〇 立方寸	五〇,〇〇〇 粒	姫鱒卵用
二	一・二	八	六七三	五〇,〇〇〇	鮭卵用

千歳事業場ヨリ札幌中之島本場輸送成績次ノ如シ。

番 號	發發 育送 程度時		發 送 日 時	到 着 日 時	時所 間要		發 着	發 着	發 着	卵 着	卵輸 數送	死到 卵着 數時	同上 %	魚 種	備 考
一	十發 日眼 目後	十二 月五 日十 五分	十二 月五 日十 五分	十二 月五 日十 五分	十三 時五 分	曇	曇	一・二 三・七	六・〇 五・七	五〇,〇〇〇	五八〇	一・二六	姫鱒	荷造り完	
二	二受 時精 間後	十二 月十 七 日十 五分	十二 月十 七 日十 五分	十二 月十 七 日十 五分	七時 間三 十五 分	晴	晴	一・〇 〇・〇	二・〇 七・〇	五〇,〇〇〇	一,〇〇〇	二・六〇	鮭	〃	

以上第一號第二號ノ試驗ノ結果從來使用セル布盆重疊式輸送器ニ依ラズテ卵子ノ輸送ハ可能ナルモノニシテ試驗の結果ヨリ見ルトキハ卵ノ輸送器ノ收容並到着後孵化器收容時ニ於ケル操作ノ簡略ナルコトハ從來ノ輸送器ノ比ニ非ラズ、嚴寒時ノ凍結防止法ノ考案ヲ見ルトキハ事業卵ノ大量輸送ニ利用シ得ラル、モノト思考サル。

(ロ) 蒲ノ葉利用ニ依ル運搬方法

運搬器ノ構造ハ臺盆蓋盆及卵盆ノ三種トシ何レモ長サ二尺五寸幅九寸五分ニシテ臺盆及蓋盆ノ深サ一寸五分卵盆深サ二寸五分トセリ、各構造ヲ異ニシテ臺盆ニハローブラ結附シ卵盆及蓋盆ヲ重ネ結束ニ用フ、何レモ堰板用蒲ノ葉ヲ編ミテ底トシテ取付ケ臺盆及蓋盆中ニ水苔ヲ入レ乾燥ヲ防止ス、盆枠ハ何レモ二枚合セトシ中枠ト外枠トノ食違ヲ五分トシ上部ノ盆ノ底ニ食ヒ込マシムル様裝置セリ、各卵盆ニハ中仕切ヲ爲シ動搖扁在ニ備ヘタリ。此ノ盆一枚ニ對シ鮭卵五萬粒一組二十萬粒ヲ收容セリ、右運搬箱ニ依リ二回ニ亘リ輸送シテ其ノ成績ヲ試驗セリ。

- (イ) 自、湧別事業場 至、下渚滑村宇下渚滑十線渚滑川 所要時間約十六時間
- (ロ) 自、湧別事業場 至、興部村五線興部川 所要時間十八時間二十分
- 兩回共在來ノ運搬器ヲ使用シテ成績ヲ比較セルニ其成績兩者殆ンド差異ヲ認メズ。
- (イ) 蒲ノ葉ヲ編ミタルモノハ晒布ノ代用トシテ充分ナリ。
- (ロ) 使用前二日間水中ニ漬ケ置ク時ハ葉ニ水分ヲ含ムヲ以テ乾燥ヲ防ギ得ル。
- (ハ) 入手容易ニシテ低廉ナリ。
- (ニ) 晒盆ニ比シ運搬成績ニ遜色ヲ認メズ。
- (ホ) 晒盆ニ比シテ輸送能率増進ス。

(3) 鮭稚魚ノ標識放流試驗

目的 前年度ヨリノ繼續試驗ニシテ農林省トノ協定ニ依リ河游經路河游率等孵化事業上重要問題ナルヲ以テ本試驗ヲ施行セントス

方法 脂鰭ト尾鰭下葉ノ組合セ切斷ヲナシ標識魚ハ二萬三百七十一尾トシテ所定部分切斷後二週間乃至三週

間飼育シ其ノ間切斷ニ依ル減耗率ヲ調査ノ上放流セリ。

期間 自昭和十五年五月九日 至昭和十五年五月三十一日

場所 網走川(本場)

結果 標識ニ當リテハ操作ヲ容易ナラシムル爲「エーテル」ニテ麻醉セシメ切斷シ五月九日開始五月十六日終了セリ、標識魚二萬三百七十一尾ニ對スル標識ニ依ル減耗率二・六九%ニシテ五月三十一日網走川ニ放流セリ。

(4) 鮭卵砂利層埋沒孵化試驗

目的 時局下ニ於テ從來ノ孵化器材ハ其ノ補給益々困難ナルベク從テ之等ノ材料ヲ使用スルコトナクシテ孵化方法ヲ案出スルコトハ事業上緊急ナルモノト思考セラル、ヲ以テ其ノ一方法トシテ本試驗ヲ施行セリ。

方法 現在使用中ノ孵化槽ヲ利用シ之ニ徑一糎乃至四糎ノ砂利ヲ重疊シ鮭卵五萬粒ヲ收容其ノ孵化經過ニ付試驗ス。

第一號及第二號ノ二種ノ優劣ヲ試驗セリ。

番號	供試卵數	砂利層厚サ	砂利層上ノ水深	卵埋沒面積	一分間注水量	備考
第一	五〇、〇〇〇粒	三寸	一寸	五三九平方寸	二立	
第二	五〇、〇〇〇粒	三寸	三寸	五三九平方寸	二立	

期間 自昭和十六年三月三日

場所 千歳事業場

結果 試驗卵ハ一月九日採卵二月五日發眼セル鮭卵ニシテ三月十二日孵化完了セリ、斃死魚ナク成績良好ナリ。

(5) 孵化用代用資材ノ考案試驗

目的 現下ノ狀態ニ於テハ孵化用資材ノ入手補給ハ欠第ニ困難トナリ事業施行上ニモ支障ヲ生ズル恐ナシトセズ依ツテ代用資材ノ考案ヲナシ事業施行上ノ資料タラシメントス。

方法 孵化事業用資材中堰板用晒布ノ入手殆ンド困難ナルヲ以テ晒布ノ代用品トシテ容易ニ且安價ニ入手得ラル、モノトシテ蒲葉ヲ選定シ試驗セリ、八月土用前後十日間位ヲ選ビ葉ノ不揃ヲ避クル爲穂ノ立クザル葉ノ根本ヨリ刈取り切口ヨリ二尺五寸位ニ切斷シ約十日間水中ニ漬ケ乾燥シ使用ノ際ハ十數分間水中ニ浸シ揉ミ乍ラ堰板ニ卷キ押入ス。

期間 周 年

場所 湧別事業場

結果 (イ) 卵收容ヨリ孵出迄堰板一枚ニ對シ平均三枚デ充分ナリ。

(ロ) 晒布ト比較シテ水止耐久力遜色ナシ。

(6) 嚴寒期ニ於ケル鮭卵ノ受精試驗

目的 嚴寒期ニ於ケル鮭卵ノ受精率極メテ惡ク特ニ採卵後期ノモノニ一層不受精卵多キヲ以テ之等ノ原因ニ就キ究明セントス。

方法 嚴寒期ニ採卵セル鮭卵ヲ普通運搬方法ト煖房裝置（駄鞍箱底部ヘ二箇ノ湯タンボヲ入レ其ノ周圍ヲ牧草ニテ圍ミ更ニ運搬箱ニ水苔ノ乾燥セルモノヲ入レテ卵ノ全面ヲ覆ヒ外氣ニ直接影響ナカラシム）ニ依ル運搬方法ニ依リ比較運搬セリ。

期間 昭和十六年一月二十七日

場所 虹別支場

結果 溫根別捕獲場ニ於テ採卵セル鮭卵ヲ普通運搬裝置及煖房運搬裝置ニ依ル方法ニテ虹別支場ヘ運搬セルモ鮭親魚ノ浜上末期ニテ試驗魚ハ數日前ヨリ蓄養槽ヘ收容セル爲親魚惡質ノ結果比較試驗不可能ニ付來年度再試驗ノ要アリ。

(7) 養魚池日射防止法改良試驗

目的 從來養魚池ノ日覆ハ板ヲ使用シ來リタルモ補給ニ多額ノ經費ヲ要スルノミナラズ木材ノ需給關係モアルヲ以テ之ガ代用品或ハ特殊ノ方法ヲ考案セソトス。

方法 地方ニ於テ容易ニ入手セラル、介殼、玉石ヲ使用試驗セリ、介殼ハ十四番線針金ヲ六尺宛ニ切斷シテ之ニ介殼ヲ抱キ合セニ通シ水流ニ平行ナラシムル様池底ニ配列セリ、玉石ハ大イサ十五糎ヨリ三十糎ノモノヲ適宜池底ヘ配列セリ。

期間 周年

場所 湧別事業場

結果 日覆板使用ノモノト比較スレバ次ノ如シ。

日	覆	板	介	殼	玉	石	備	考
池底利用ノ程度	隅ニ集マル傾向アリ	全部使用出來ル	同シ池ノ面積狹溢トナル	同上	同上	同上	同上	同上
鳥類ノ害	ナシ	少ナキモノト認ムルモ今後ノ試験ニ俟ツ	水深一尺ヲ保タシムルニ於テハ害ナシ	同上	同上	同上	同上	同上
降雪時	害ナシ	稍良シ	不詳	稍劣ル	永久	三者共多少補給ヲ要ス	五十坪	
池水ノ流通	良シ	稍便利	硬高ヲ高ムルニ役立ツモノト認ム	關係ナシ	一五〇圓			
保存年限	約十年	一〇〇圓						
取扱	便利							
水質	關係ナシ							
經費	三五〇圓							

(8) 鮭洄歸試驗

目的 將來洄歸ノ可能性ヲ有スルト思惟セラル、適當河川ニ一定數ノ鮭稚魚ヲ放流シ浜上親魚ノ増加ヲ計ルト共ニ後年ノ洄歸實相ヲ知ラントス。

方法 鮭卵三十萬粒ヲ田中式孵化器一個ニ對シ五萬粒宛六個ニ分納シウラルクシベツ川口上流約四百間ノ個所ニ靜置シ孵化放流セリ。

期間 自昭和十五年一月二十五日 至昭和十五年六月三十日

場所 ウラルクシベツ川（國後支場）

結果 移殖卵ハ三月三十日孵化完了シ其ノ孵化率七〇%ニシテ六月上旬放流セリ。放流後ノ成果ハ爾後數年

ヲ俟タザレバ不明ナルモ同地沿岸竝ニ河川ニ相當ノ迴歸ヲ見ルベキコト、思考ス。

(9) 漁川鮭親魚捕獲採卵試驗

目的 千歳川ニ溯上スル鮭親魚ノ一部ハ其ノ一支流タル漁川ニ溯上産卵ヲ行フハ疑ヲ入レザル所ナルモ其ノ溯上ノ狀況未ダ明ナラズ依ツテ溯上狀況ヲ明ニスルト共ニ千歳川ニ對スル之等ノ稚魚放出數ノ増加ヲ計ラントス。

方法 漁川ト千歳川トノ合流點ヨリ約一里上流ニウライ式親魚捕獲裝置ヲ設ケ捕獲竝ニ採卵ヲナシ卵子ハ千歳事業場ニ輸送收容シ放流迄ノ成績ヲ調査セリ。

期間 自昭和十五年九月一日 至昭和十六年五月十日

場所 千歳事業場

結果 九月一日ヨリ捕獲開始シ鱒ハ十二月十九日鮭十二月十八日ヲ以テ終了セリ。

本年度親魚捕獲採卵成績ハ次ノ如シ。

魚種	親魚捕獲數		使用親魚數		採卵數	豫定計畫採卵率	雌親魚使用率	平均採卵數	期間
	雌	雄	雌	雄					
鮭	二七四	二一〇	四八四	二五	二五	五五〇、〇〇〇	二七・五%	九・三%	二、一七
鱒	一〇五	六	一四四	一〇四	二	一四〇	一〇一、五〇〇	四〇・五	九・〇
								一、六六	自九月二十四日 至十月十九日

收容後放流迄ノ成績次ノ如シ。

魚種	孵化經過			採卵數	死卵			放流數	放流期間
	採卵	發眼	發生		發眼前	發眼後	合計		
鮭	三、九一三	一〇、一	二、一七	五五〇、〇〇〇	二、九〇〇	七、〇〇〇	七、九〇〇	一、一%	自五月十一日 至五月十一日
鱒	三、九一〇	一〇、二	二、一七	一〇一、五〇〇	一、九〇〇	二、一〇〇	四、一〇〇	一〇・三	自五月十一日 至五月十一日

(二) 淡水水族ニ關スル試驗

(1) オシヨロコマ採卵竝ニ飼育能否試驗

目的 本道特産ノ本種ノ採卵池中飼育ノ可否ニ付試験セントス。

方法 擇捉島大山川ニ多産セラル、本種卵ノ移植送付ヲ受ケ養魚池ニテ飼育シ其成育狀況竝ニ採卵其ノ他ニ付調査ス。

期間 年

場所 千歳事業場

結果 本試験ハ昭和十三年以來ノ繼續ニシテ昨年迄ノ成績ニ依リ池中養殖竝ニ採卵ニ關シテハ良好ナル結果ヲ得池中養殖用ノ鱒類トシテ利用シ得ルコトヲ知り得タリ、本年ハ昨年ニ引續キ第二回産卵期ニ至ル成績ヲ調査セリ。

第一回産卵後第二回産卵期ニ至ル成長割合次ノ如シ。

測定月日	平均全長		平均体重		最大全長		最小体重		備考
	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	
十四年十一月五日	二七・一	二九・八	五三・〇	七五・一	一	一	一	一	第一回採卵期
十五年十月三十一日	二二・四	二五・六	八五・五	二五・四	二六・二	三二・五	一五・〇	三二・五	
									第二回採卵期

本年度採卵ハ十月三十一日より十一月十五日迄二回ニ亘リテ施行シ親魚數雖五十二尾雄二十二尾ヲ使用シ採卵數一五〇〇粒ニシテ孵化室ニ收容孵化飼育中ノ處十二月二十五日より一月二十日迄ノ間ニ全部孵化ヲ終リ孵化成績ハ左表ノ如ク昨年度第一回ノ卵ニ比シ稍良好ナル成績ヲ示シ孵出稚魚モ概シテ強壯ナリ。

採卵月日	孵化月日	採卵數	死卵數	孵出數	浮游數	浮游月日	孵化率	浮游率
自十月三十一日 至十一月十五日	自十二月二十五日 至一月二十日	一五、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	自二月五日 至二月二十八日	六六・%	九〇・%

(2) 虹鱒捕獲試験

目的 クサレ沼へ孵化放流セル虹鱒ノ繁殖狀況ヲ調査シ將來ノ基礎的資料ヲ得ントス
方法 沼内ニ刺網ヲ用ヒ其ノ捕獲率ヨリ移植成果ヲ究メ併ニテ之等ノ生態學的調査ヲセリ。
期間 自昭和十五年八月二十二日 至昭和十五年八月二十四日
場所 クサレ沼（國後支場）
結果 捕獲魚種ハ雨鱒、ウグヒノミニテ虹鱒ノ捕獲皆無ニシテ同湖放流稚魚ハ全ク他困的ニ斃死セルモノト

歸結セザルベカラズ、之ガ原因ハ多要素ニ亘ルベクモ左ノ諸點ヲ舉ゲ得ベシ。

- (イ) 本沼水質ガ本種ノ棲息ニ不適當ナルコト。
- (ロ) 已棲害魚ニ依リ放流稚魚ノ絶滅セルコト。

(3) 養魚用新規餌料試験

目的 水産連絡試験ノ協定ニ基クモノニシテ事變下養魚餌料ノ供給不足ト之レニ伴フ價格ノ高騰ハ勢ヒ餌料トシテ他ニ新クナル材料ノ撰擇若クハ其合成ニ付試験セントス
方法 虹鱒二年魚五七五尾（面積十一坪半、水深三尺、水量一分間六十四立）ニ左記調製餌料ヲ投餌シ飼育ス、投餌方法ハ馬鈴薯ノ皮ヲ剥キ煮熱シテ播潰シ豆腐、米糠、魚粉ヲ混ジ之ヲ一分目ノチョップバーニテ通シ更ニ米糠ヲ散布シツ、適當ノ大サニ切斷シテ午前午後ノ二回ニ亘リ投與ス。

種類	馬鈴薯	米	糠	豆	腐	魚	粉
割合	四〇%	三〇%	二〇%	一〇%			

期間 自昭和十五年八月三十日 至昭和十五年十月二十八日
場所 千歳事業場

結果 試験期間中ニ於ケル攝餌狀況ハ投餌開始後一週間ハ甚ダ悪ク其ノ後次第ニ旺盛トナリタルモ試験期間中ヲ通ジ良好ナラズ、一日ノ投餌量ハ二〇〇〇瓦宛總計三〇〇瓦ナリ。
取揚時ノ魚体五〇尾ノ測定結果次ノ如シ。

放 取 養 揚 時 時	全 長 (種)			体 重 (瓦)		
	平 均	最 大	最 小	平 均	最 大	最 小
一〇・八	一一・八	一四・四	九・四	一六・六	三〇・〇	八・〇
一二・九	一二・九	八・三	一二・七	二〇・〇	七・五	

七、調 査

(一) 水族ニ關スル調査

(1) 石狩沿岸ニ於ケル鮭稚魚ノ混獲状況調査

目的 鮭稚魚ノ降海後ニ於テ沿岸各漁網ニ依リ混獲セラル、モノ多ク斯クテハ人工孵化事業上將來ニ於テ重大問題ナルヲ以テ之レガ實情調査ノ上混獲防止ノ資料ヲシメントス。

方法 沿岸各地ニ鮭稚魚ノ洄游出現時施網シツ、アルモノニ就キ其ノ實際状況ヲ調査セリ。

期間 自昭和十五年七月二日 至昭和十五年七月四日

場所 厚田、濱益(本場)

結果 厚田沿岸調査當日ハ降雨ニシテ海上波浪高ク充分ナル成績ヲ擧ゲ得ザリシモ濱益沿岸ノ各魚業者ノ漁獲セル玉筋魚ヲ調査セル結果鮭稚魚ノ混獲數ハ莫大ナル數ニシテ煮乾魚粕トシテ販賣シ居ル狀態ニシテ混獲防止ニ就イテハ嚴重ナル取締ノ要アルモノト認メラレタリ。

(2) 稚鮎ノ溯上調査

目的 前年度ヨリ繼續事業ニシテ日本海沿岸各河川ノ鮎溯上多キヲ加フルニ至リタルヲ以テ之等稚鮎ノ溯上

時期不明ノ點多キヲ以テ之等ヲ調査スルト共ニ將來池中養殖ニ當リ最重要ナルハ稚鮎ノ供給ナルガ從來溯上期明瞭ナラザル爲實現化シ得ザルヲ以テ事業化ノ基礎資料ヲラシム。

方法 溯上期ハ各河川ニヨリ異ナルヲ以テ之等ノ河口附近ニ於テ調査セリ。

期間 自二月 至六月

場所 厚田川(本場) 厚澤部川(渡島支場)

結果 (イ) 厚田川ニ於ケル稚鮎溯上調査

厚田川ニ於ケル稚鮎溯上期ハ大体ニ於テ五月下旬ヨリ六月中旬頃ニ溯上スルモノ、如ク調査當時捕獲セル魚体ハ全長最大六・六釐最小四・七釐ニシテ水温一一―一三度ナリ。

(ロ) 厚澤部川ニ於ケル稚鮎溯上調査

六月二十二日沿岸ニ於テ曳網ヲナセル處「シラス」鮎數千尾ノ捕獲ヲ得其後七月ニ至リテモ沿岸一帯ニ稚鮎ノ群泳ヲ認ムルモ七月以後ノモノハ殆ンド着色シ「シラス」ノモノナク之等ハ河川ヲ上下シ游泳スル事判明セリ、依テ厚澤部川ニ於ケル稚鮎溯上時期ハ早期トシテ二、三月ヨリ四月以降五月初旬ガ第一回盛期六月中旬ヨリ下旬(六月下旬河水温一六度、海水温二〇度)ニ至リテ第二回溯上期ト思考サル。

(3) 鮭親魚捕獲採卵ニ關スル調査

目的 近年釧路川ヘノ鮭溯上漸減ノ傾向ニアルニ反シ庶路川、茶路川、音別川、阿寒川等ヘノ溯上増加ノ徴ヲ示スニ至リ沿岸線民ニ依リ之等ノ密漁セラル、モノ相當數量ニ達シ鮭蕃殖保護上遺憾ニ不堪現狀ニアルヲ以テ之等親魚ノ溯上數量熟否等ニ就キ調査ヲナシ將來親魚捕獲場ヲ設置シ孵化事業經營上必要ナル資料ヲ求メントス

方法 各河川ノ地形ニ應ジウライ或ハ刺網ヲ使用シ捕獲ヲナシ調査ヲナス
期間 自昭和十五年九月二日 至昭和十五年十二月五日
場所 庶路川、茶路川、音別川、阿寒川（虹別支場）
結果 (イ) 音別川

本川ニ於ケル鮭親魚ノ捕獲ハ河口ヨリ上流千間ノ地點ニ於テ網ウライ式捕獲裝置ヲ以テ九月三十日着手セリ、捕獲親魚ノ成熟狀況ハ十月三十一日ヨリ四日迄ノ捕獲數一六尾（雄七尾雌九尾）ニ付イテ見ルニ成熟魚雌八尾雄七尾未熟魚雌一尾ナリ、斯ク親魚ノ成熟率良好ナリ、減水ノタメ捕獲場中途ニ於テ遊泳ガ長期ニ亘リタルモノト思料サル

(ロ) 茶路川

捕獲場所ハ河口ヨリ上流約六百間ニシテ捕獲裝置ハ網ウライ式ニシテ十月三十一日着手セリ、十一月二日迄ノ捕獲數ハ雌六百五十八尾、雄六百五十四尾、計一千三百三十二尾ニシテ大半ハ未熟魚ナルモノ、二週間ノ蓄養ニ依リ採卵可能ト認メラル。

(ハ) 庶路川

捕獲場所ハ河口ヨリ上流約一千間ニシテ捕獲裝置ハ網ウライ式ニシテ調査當日ノ捕獲魚ハ雌二十三尾雄二十二尾計四十五尾ニシテ成熟狀況ヲ見ルニ成熟セルモノ雌一〇尾雄十一尾ニシテ未熟親魚ノ銀型ノモノ雌六尾雄三尾斑紋ノアルモノ雌七尾雄八尾ナリ、未熟魚ノ斑紋ヲ有スルモノハ一、二週間ノ蓄養ニテ採卵可能ト認メラル、モ銀型ノモノハ尙當分採卵見込ナク又附近ニ蓄養池ナキヲ以テ捕獲場所ヲ尙上流二、三里ノ地點ニ移動ノ必要アルモノト認メラル

(ニ) 阿寒川

捕獲場所ハ河口ヨリ上流六百間ニシテ捕獲裝置ハ網ウライヲ使用セリ。十一月四日迄ノ捕獲尾數ハ雌八百五十八尾雄六百四十四尾計一千五百二尾ニシテ捕獲魚ハ全部未熟魚ノミニテ相當長期ノ蓄養ヲナスト雖モ採卵ハ不可能ト認メラル、現在ノ捕獲場ハ底質泥土ニシテ捕獲漁具ノ埋没及腐蝕蓄養設備ノ不可能ナル點ヨリ見テ上流ニ適地ヲ求メ移轉ノ要アルモノト認メラル。

(4) サロマ川鮭湖上流ニ孵化適地調査

目的 サロマ川ハ保護河川ナラザルモ從來鮭親魚ノ湖上極メテ多ク前年度ニ於テ約二千尾以上ノ捕獲ヲナシタル狀況ニアルヲ以テ同川資源維持上調査ヲ施行セントス。

方法 現場ニテ湖上實狀ヲ調査シ將來積極的ニ増殖ヲ計ル際ノ基礎資料トシ併セテ孵化適地ノ調査ヲモナセリ。

期間 周年

場所 サロマ川（北見支場）

結果 サロマ湖ニ於ケル鮭漁獲高ハ昭和十一年ノ九十八石ヲ最高トシ最近ニテハ一千尾平均ノ漁獲高ヲ示セリ孵化適地調査ノ結果左記二ヶ所ヲ選定セリ。

(イ) 常呂郡佐呂間村字仁倉

佐呂間川口ヨリ約二里上流ノ部落ニシテ鑿井ノ最モ多ク湧出スルハ吉川方ノモノニシテ調査時ノ水温九・一度水量一分間三斗PH六・八鐵管口徑一・五吋ニシテ地底六十七尺ナリ、自噴ハ地上七・八尺ニ及ベリ、此ノ附近ノ鑿井ニ依ル湧水範圍ハ吉川方ヲ中心ニ比較的小範圍ノ如ク思料セラル、ヲ以テ此ノ附近

ニ必要大ノ鐵管ヲ押入スル場合ニハ二百萬粒程度ノ孵化用水ヲ得ラル、モノト信ズ然シテ養魚地用水ハ附近ノ仁倉川ヨリ誘導シ得ル便アリ。

(ロ) 中サロマガンビ澤

此ノ場所ハ溪水ニシテ落差アリ地形前者ニ優ルモノト思料セラル、モ調査時狀況ハ氣溫二七・一度水溫一六・五度PH七・四水量一分間約三石ニシテ水質檢定ノ結果孵化用水トシテハ不適當ト認メラレタリ。前記ニ候補地ノ内仁倉ノ湧水ハ孵化用水トシテ好適ナルヤ否ヤサロマガン産鮭卵ヲ收容シテ孵化ヲ試ミタリ、其ノ孵化率八三・七五%ナレドモ此ノ成績ハ消毒其ノ他ノ管理ヲ地元民ニ依頼セシモノニシテ其ノ取扱方充分ナリト云ヒ得ザル狀況ヨリ見テ先ヅ良成績ト云フヲ得ベシ。

(5) 湖沼ニ於ケル鮭親魚ノ捕獲率ニ關スル試驗

目的 廣大ナル湖沼ノ捕獲場ニ於テ同湖上魚ノ捕獲ハ事實上困難ニシテ其ノ漁獲率ノ決定ハ全ク不可能ナリ依テ本調査ヲ施行シ之レガ實相ヲ闡明スルト共ニ併セテ湖上推移ニ依ル体型上ノ變化ヲ知ラントス。

方法 湖上河川タル東沸川ニ於テ曳網ヲ用ヒ一定親魚ヲ捕獲シ魚体測定ヲナシ之レニ標識ヲ付シ放流ヲナシ東沸湖内ニ於ケル再捕狀況ニ付調査セリ。

期間 自昭和十五年七月 至昭和十五年十二月
場所 東沸川及東沸湖(國後支場)

結果 東沸河口ヨリ約三百間上流地點ニ於テ鮭親魚六十六尾ニ標識符ヲ尾柄ニ結着シ上流ニ向ヒテ放流セリ、標識符ハセルロイド製ニ標識符號ヲ刻セルモノニシテ銅針金ヲ以テ尾柄ニ結着セリ。

放流魚六十六尾ニ對スル再捕獲ハ二十五尾ニシテ其ノ再捕率三八・七%ニ當レリ、再捕場所ハ東沸湖捕獲場五尾、アンノロ川捕獲場二十尾ナリ、体型ノ變化ハ全長体高ハ放流時ニ比シ顯著ナル増加ヲ示シ体重ハ相反シ減少スルノ傾向アルヲ認メラル、併シテ親魚ノ成熟日數ハ放流後略二十日内外要スル如ク想察セラル。

(二) 水面利用ニ關スル調査

(1) 河川調査

目的 豐平川ノ一般性質ヲ明カナラシメ河川水質調査ノ標準資料タラシメントス。
方法 毎月一回定期採水ヲナシ物理化學的調査ヲナス。

期間 周年
場所 豐平川(本場)

結果 札幌市ヨリ平岸村ニ通ズル幌平橋下ヲ調査箇所ニ定メ毎月一回觀測採水ノ上水質分析セリ。
分析結果次ノ如シ。

採水月日	昭和十四年九月二十日	昭和十四年十月二十五日	昭和十四年十一月十日	昭和十五年六月二十六日	昭和十五年七月八日	昭和十五年八月十七日
採水時間	午前九時	午前九時三十分	午前十時	午前十時	午後二時	午後二時三十分
天候	晴	晴	曇	晴	曇	晴
氣溫(度)	一六・五	一〇・五	九・四	一三・〇	一八・〇	二五・五
水溫(度)	一五・〇	一六・三	一五・八	一五・七	一七・〇	二二・九

酸素	同飽和度	過マンガン消費量	珪酸	磷酸	アンモニア態窒素	硫酸	遊離炭酸	カルシウム	溶解性固形物	水	水
PH	(%)	(mg/L)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	濃度	濃度
六・九	六・八	八・三	七・七	八・〇	〇・〇	五・〇	二・九	一四・〇	六・〇	七・二	七・四
六・九	八・四	九・〇	五・〇	五・五	〇・〇	六・三	二・四	一・六	五・〇	七・〇	七・四
七・〇	八・〇	一〇・〇	六・七	一・九	〇・〇	三・八	一・九	一・二	一・〇	七・四	七・〇
七・〇	七・四	一〇・〇	四・八	一・〇	〇・〇	三・〇	一・四	一・〇	九・五	七・四	七・〇
七・一	六・三	九・五	四・六	一・七	〇・〇	六・八	一・四	一・〇	一・〇	七・四	七・〇
七・一	五・五	八・三	四・八	七・五	〇・〇	一・六	一・七	一・〇	一・〇	七・四	七・〇
七・一	五・五	八・三	四・八	七・五	〇・〇	一・六	一・七	一・〇	一・〇	七・四	七・〇
七・一	五・五	八・三	四・八	七・五	〇・〇	一・六	一・七	一・〇	一・〇	七・四	七・〇
七・一	五・五	八・三	四・八	七・五	〇・〇	一・六	一・七	一・〇	一・〇	七・四	七・〇

(2) 水力發電用堰堤ニ依ル湛水區域調査

目的 農林省水産試験場トノ連絡試験ニシテ水力發電用堰堤築設ニ依ル湛水區域ノ漁業利用價值ノ調査ヲナサントス。

方法 協定指示事項ニ就キ調査可能範圍ニ於テ施行セントス、理化學的竝ニ生物學的調査ヲ實施セリ。

期間 自昭和十五年五月 至昭和十五年十月

場所 千歳川(千歳事業場)

結果 (一) 理化學的調査

調査地	調査月日	調査時刻	天気	調査時刻	調査時刻	調査時刻
第四發電所堰堤 中ノ上五〇米河川	昭和十五年 六月二十二日	自午前九時 至午前十時四十分	微雨	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分
同	七月十九日	自午前九時三十分 至午前十時三十分	晴	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分
同堰ノ上一〇米上	八月二十三日	自午前九時三十分 至午前十時三十分	晴	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分
同	九月 缺測	自午前九時三十分 至午前十時三十分	曇	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分
同堰ノ上五〇米上	十月二十六日	自午前九時三十分 至午前十時三十分	曇	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分

調査地	調査月日	調査時刻	天気	調査時刻	調査時刻	調査時刻
第四發電所堰堤 中ノ上五〇米河川	昭和十五年 六月二十二日	自午前九時 至午前十時四十分	微雨	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分
同	七月十九日	自午前九時三十分 至午前十時三十分	晴	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分
同堰ノ上一〇米上	八月二十三日	自午前九時三十分 至午前十時三十分	晴	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分
同	九月 缺測	自午前九時三十分 至午前十時三十分	曇	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分
同堰ノ上五〇米上	十月二十六日	自午前九時三十分 至午前十時三十分	曇	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分	自午前九時三十分 至午前十時三十分

	七・二	七・〇	七・四	七・二	底
	六・四	二・八	五・一	—	表面
	六・七	三・四	四・五	—	中層
遊離酸素含有量	五・六	五・三	五・三	—	底

(二) 生物學的調査

(イ) 浮游生物調査

(一) 動物性プランクトン

種 類	採 集 月 日	6, 22	7, 19	8, 23	9 月 缺 測	10, 26
Alona sp.		40	—	—	—	20
Ceriodinhiundinella		—	—	2)	—	60
Cyclops sp.		40	—	20	—	—
Diapomus sp.		—	80	20	—	—
Scapholebates sp.		—	20	40	—	—

(二) 植物性プランクトン

種 類	採 集 月 日	6, 22	7, 19	8, 23	9 月 缺 測	10, 26
Cocconeis sp.		20	—	—	—	—

Cocconeia sp.	—	40	20	—	40
Gomphonema sp.	20	40	40	—	—
Melosira sp.	40	20	20	—	20
Navicula sp.	20	20	—	—	—
Nostoc sp.	—	—	180	—	—
Cymbella sp.	—	—	—	—	20
Orthosira sp.	40	60	40	—	—
Oscillatoria sp.	160	140	20	—	180
Odontidium sp.	—	20	22	—	—
Pinnularia sp.	20	—	—	—	—
Rhizosolenia sp.	20	—	—	—	—
Synedra sp.	40	20	—	—	—
Tabellaria sp.	20	—	—	—	20
Spirogyra sp.	—	60	8)	—	20
Ulothrix sp.	80	40	60	—	—

(ロ) 底棲動物

種 類	採 集 月 日	6, 22	7, 19	8, 23	9 月 缺 測	10, 26
Chironomus sp.		14	21	8	—	7

Tubifex	sp.			1		2
Limnodrilus	sp.			1		2
Gyrinus	sp.			2		1

八、指導及講習講話

(一) 實地指導

期 間	場 所	被 指 導 者	項 目	指 導 者
昭和十五年四月十九日	龜田郡七飯村	傷痍二人七飯療養所	虹鱒池中養殖	本場員
五月十八日	札幌郡篠路村字茨戸村	石狩漁業協同組合	公魚人工孵化事業	"
五月二十七日	増毛郡増毛村	天鹽水産會	虹鱒池中養殖及鮭孵化事業	"
五月二十九日	天鹽郡遠別村	天鹽水産會	孵化場適地指導	"
八月五日	増毛郡増毛町字阿分村	五十嵐眞一	虹鱒池中養殖指導	"
八月六日	増毛郡増毛町字暑寒別	天鹽水産會	"	"
八月七日	増毛郡字暑寒澤村字中歌	遠藤徳太郎	鯉池中養殖指導	"
九月四日	増毛郡増毛町	増毛漁業協同組合	鮎人工孵化事業	"
九月六日	増毛郡厚田村	厚田漁業協同組合	"	"

九月十三日	島牧郡西島牧村	西島牧漁業協同組合	"	"
九月十四日	瀬棚郡瀬棚村	瀬棚郡漁業協同組合	"	"
十月十九日	龜田郡七飯村字鈍子口	山崎徳太郎	虹鱒池中養殖	"
十月二十八日	虻田郡京極村	京極村役場	"	"
十月二十九日	定山溪小樽内御料地	石狩水産會	"	"
十月三十日				

九、其ノ他

(一) 事業打合せ

本年度事業施行ニ當リ五月五日及六日本場會議室ニ於テ各支場長ヲ召集シ打合ヲナシタリ。

(二) 支場及事業場ノ移轉改稱

告示第百三十一號ヲ以テ北見支場ハ野付牛ヘ移轉シ常呂事業場ハ湧別事業場改稱ノ上舊北見支場跡ヘ移轉セリ。
告示二千三十二號ヲ以テ擇捉支場ハ紗那村ニ移轉シ舊擇捉支場ハ留別事業場ト改稱セリ。

(昭和十六年七月現在)

移管前經營者

[illegible]

昭和十六年八月二十五日印刷
昭和十六年八月三十一日發行

北海道水産孵化場

印刷人 札幌市南二條西六丁目
山 藤 國 八

印刷所 札幌市南二條西六丁目
山藤印刷合資會社